

各関係機関長 殿

香川県農業試験場病害虫防除所長
(公 印 省 略)

平成 22 年度病害虫発生予察注意報第 4 号について

このことについて、次のとおり発表したので送付します。

平成 22 年度 病害虫発生予察注意報 第 4 号

1. 病害虫名 : **ミナミアオカメムシ**
2. 対象作物 : **水稻（普通期・晩期栽培）、ダイズ等のマメ科作物**
3. 発生が予想される地域 : **県下全域**
4. 発生程度 : **多**
5. 注意報発表の根拠

- 1) 平成 20 年 9 月にミナミアオカメムシの本県での新発生を確認して以降、高圧水銀灯では本種が断続的に誘殺されているが、本年 4 月から 8 月第 3 半旬までの誘殺数は 103 頭であり、前年の 8 頭に比べて明らかに多い（第 1 表）。
- 2) 高圧水銀灯では、前年は 8 月からに連続的に誘殺され、10 月第 1 半旬の誘殺数が最大になっていることから、今後、ミナミアオカメムシが増加し、本年の秋期には前年よりも多発生することが予想される（第 1 表）。
- 3) 本年 7 月下旬の出穂期には水稻での発生圃場率は 5.6%であったが、8 月上旬には 33.3%となり、前年同時期の 16.7%に比べて高かった。本年は畦畔雑草でも捕獲されており、前年よりも広範囲に発生することが予想される（第 2 表）。

第1表 ミナミアオカメムシの高圧水銀灯での誘殺数の推移(高松市仏生山町)

年次	4月(第1~6半旬)						5月(第1~6半旬)						6月(第1~6半旬)						7月(第1~6半旬)					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
平成20年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
平成21年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
平成22年	0	1	0	0	0	2	1	5	0	9	6	1	2	1	1	3	1	0	3	5	7	9	8	6

年次	8月(第1~6半旬)						9月(第1~6半旬)						10月(第1~6半旬)						11月(第1~6半旬)					
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
平成20年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
平成21年	2	2	1	2	2	1	2	4	4	2	2	2	20	4	3	2	1	3	0	0	0	0	0	0
平成22年	19	4	9																					

第2表 早・短期水稻および畦畔雑草でのミナミアオカメムシの発生状況(*1)

年次	早・短期水稻				畦畔雑草			
	発生圃場率(%)		平均虫数		発生圃場率(%)		平均虫数	
	7月下旬	8月上旬	7月下旬	8月上旬	7月下旬	8月上旬	7月下旬	8月上旬
平成20年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平成21年	11.1	16.7	2.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0
平成22年	5.6	33.3	1.0	1.8	5.6	0.0	1.0	0.0

*1: 18圃場において、稲穂あるいは圃場外縁の畦畔雑草を、捕虫網で任意に各20回すくい、捕獲された虫を調査。

6. 防除実施上の留意点

- 1) 本年、普通期水稻の畦畔雑草において、ミナミアオカメムシを始めとするカメムシ類がやや多く発生している。ここから水田やダイズ圃場へ移動して稲穂や莢を吸汁するので、畦畔や休耕地等圃場周辺の除草を徹底し、カメムシ類の発生源を少なくする。ただし、水稻の出穂直前に行うと、カメムシ類の圃場への移動をうながすことになるので、雑草の刈り取りを行う場合は、出穂7～10日前に行う。
- 2) 水稻の薬剤防除の時期は、液剤や粉剤等の場合は出穂期頃とその10～15日後であり、粒剤の場合は7日程度早めて処理する。なお、穂揃期以降にミナミアオカメムシが水稻で繁殖している場合は、粒剤よりも速効的で効果が高いとされる液剤や粉剤の使用が望ましい。ダイズでは、着莢初期から子実肥大中期にかけて薬剤散布する。
- 3) 防除効果を高めるために地域一斉防除に努めるが、適用作物や収穫前日数などの使用基準を遵守する(第3、4表)。なお、休耕地に使用できる薬剤もある(第5表)。

第3表 水稻のカメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準(*1)

(香川県主要農作物病害虫雑草防除指針より抜粋し、8月10日現在の使用基準に改変)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数
バイジット乳剤	1,000倍	30／1
バイジット粉剤2DL	3～4kg	21／2
スミチオン乳剤	1,000倍	21／3
スミバッサ乳剤75	1,000倍	21／3
スミバッサ粉剤50DL	3～4kg	14／3(出穂前1)
ディプレックス乳剤	500～1,000倍	14／4
トレボン乳剤	2,000倍	21／3
トレボンEW	1,000倍	21／3
トレボン粉剤DL	3～4kg	7／3
アドマイヤー粉剤DL	4kg	7／2
ベストガード粉剤DL	4kg	14／4
ダントツ粒剤	3～4kg	7／3
ダントツフロアブル	5,000倍	7／3
ダントツ粉剤DL	3～4kg	7／3
ダントツH粉剤DL	3～4kg	7／3
アルバリン粒剤	3kg	7／3
スタークル粒剤	3kg	7／3
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	7／3
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7／3
スタークル液剤10	1,000倍	7／3
アルバリン粉剤DL	3kg	7／3
スタークル粉剤DL	3kg	7／3
スタークル豆つぶ	250g	7／3
キラップ粒剤	3kg	14／2
キラップフロアブル	1,000～2,000倍	14／2
キラップ粉剤DL	3～4kg	14／2

*1: 上記単剤を含む混合剤の使用に当たっては、使用基準等が単剤と異なる場合があるので必ず確認する。

第4表 ダイズのカメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準(*1)

(香川県主要農作物病害虫雑草防除指針より抜粋し、8月10日現在の使用基準に改変)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数
スミチオン乳剤	1,000倍	2 1 / 4
スミチオン粉剤 2	4 ~ 6 kg	2 1 / 4
パーマチオン水和剤	1,000~2,000倍	2 1 / 3
スミトップM粉剤	3 ~ 4 kg	開花~若莢期: 2 1 / 4
アグロスリン乳剤	2,000倍	7 / 3
トレボン乳剤	1,000倍	1 4 / 2
トレボン粉剤 D L	4 kg	1 4 / 2
ダントツ水溶剤	2,000~4,000倍	7 / 3
ダントツフロアブル	2,500~5,000倍	7 / 3
ダントツ粉剤 D L	4 kg	7 / 3
アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍	7 / 2
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	7 / 2
アルバリン粉剤 D L	3 kg	7 / 2
スタークル粉剤 D L	3 kg	7 / 2

*1:エダマメには、適用がない場合や使用基準が異なる場合がある。

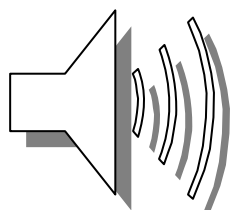
第5表 休耕田のカメムシ類に登録のある主な薬剤と使用基準(*1)

(香川県主要農作物病害虫雑草防除指針より抜粋し、8月10日現在の使用基準に改変)

薬剤名	10a当たり散布量 または希釈倍数	収穫前日数 ／使用回数
バイジット乳剤	1,000倍	- / 2
バイジット粉剤 2 D L	3 ~ 4 kg	- / 2
スミチオン乳剤	1,000倍	- / 4
トレボン乳剤	2,000倍	- / 3
トレボンEW	1,000倍	- / 3
トレボン粉剤 D L	3 ~ 4 kg	- / 3
アドマイヤー粉剤 D L	4 kg	- / 2
ダントツ水溶剤	4,000倍	- / 4
ダントツH粉剤 D L	3 ~ 4 kg	- / 4

*1:ヨシ、オギ、ススキ、セイ効アワダチソウ等の多年生雑草が優先している休耕田。

農薬はラベルをよく読んで使用しましょう



6月～8月は、農薬危害防止運動期間です。
 農薬の使用が増える時期ですので、今一度、農薬を適正に使用できているか、チェックしましょう。